

薬理学

Pharmacology

シリーズ責任者：薬理学 教授 松本 直樹

1. シリーズ概要・学習内容

薬物治療において、薬効以外に有害作用を示すことがあるため、効果を最大にし、有害作用を最小にする、合理的で科学的な使用が重要である。そもそも疾患とは、何らかの原因で生体の生理的機能や生化学的機能が障害された状態であり、薬物はその障害に介入して生体機能を維持するための一手法である。したがって我々は、正常時の生理機能、病態時の機能変化を理解し、それらの理解を基礎として、薬物の生体に対する介入メカニズム、すなわち薬物の作用機序を、薬理学において学習する必要がある。

一方、臨床薬理学では、主に生体に投与した薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を検討する薬物動態学、薬物の濃度と作用の関係を検討する薬力学について学習する。合理的薬物の基礎となる知識で臨床に直結する分野である。実際に、化合物がヒトに投与可能になるまでには、動物実験に始まり臨床試験(治験)に至る医薬品の開発過程を経なければならず、そこにある厳しい規則や方法、その基礎となる倫理的・科学的根拠にも精通する必要がある。

薬物治療を行わない医師はいない。医師を志す医学生はこれらの点を十分認識し、臨床能力の醸成に直結する薬理学・臨床薬理学を学習してほしい。

2. 到達目標

1) 一般目標

- ① 将来、医師として患者個々に合った薬物治療を合理的に行うために必要な知識を身につける。
- ② ヒトを対象として臨床試験を実施するための科学的、倫理的に適正な規範を理解する。

2) 行動目標

- ① 生体の正常機能、病態生理について説明できる。
- ② 重要な疾患の主な治療薬を分類・列挙でき、その作用機序、薬理作用、有害作用を説明できる。
- ③ 医薬品開発の概要について説明できる。
- ④ ヘルシンキ宣言、倫理委員会、同意取得について説明できる。
- ⑤ 薬物動態学(薬物動態学の計算)・薬力学を説明できる。
- ⑥ 薬物の相互作用、有害反応について説明できる。
- ⑦ 特殊疾患、特殊患者での臨床薬理学、薬物治療を説明できる。
- ⑧ 症例情報から処方計画を立案する手法を説明できる。

3. 学習上の注意点

予習用教科書は必ず購入し、講義前に必ず熟読してくること。
授業プリントおよび教科書による復習が必要。

4. 教科書・参考書

◎予習用指定教科書：『FLASH 薬理学』丸山 敬著(羊土社)

教科書：『薬理書』第12版 グッドマン・ギルマン著(廣川書店)

『NEW 薬理学』改訂第7版 田中・加藤編 (南江堂)

『標準薬理学』第7版 今井・宮本監修 (医学書院)

『臨床薬理学』第4版 日本臨床薬理学会編 (医学書院)

参考書：『GCP ハンドブック』第5版 渡邊編(じほう)

(書評) 臨床研究の基礎から実践までを含んだ内容である。

『カッツング薬理学』原書10版 Bertram D. Katzung (丸善書店)

(書評) 薬理学の新規情報を含んだ内容である。

『ラング・デール薬理学』原書8版(丸善出版)

Rang HP, Ritter JM, Flower RJ, Henderson G 著, 渡邊 直樹 (監訳)

(書評) 基礎薬理学から臨床薬理学まで網羅されている。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	90 (%)	前期末試験期間中に論述(多肢選択問題含む)試験を実施する。
授業態度		10 (%)	授業態度は、随時、指導に利用する。
		100 (%)	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
薬理学	教授	松本 直樹	原則として、 金 15時～16時	医学部本館 5階薬理学	内線 3531
薬理学	准教授	木田 圭亮	火 12時30分 ～13時30分	同上	同上

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略